

第2回篠山市東日本大震災復旧復興を支援する市民ネットワークの開催報告

と き 平成23年5月25日(水) 午後2時～

ところ 篠山市民センター

1. 開 会

2. 災害支援に関する報告

(石巻市でのボランティア活動について報告)

- ・ 17名の市民により現地で泥かきなどを行った。介護士などの専門家の派遣が必要であると感じた。
- ・ 最初は、被災地で歌を歌ってよいのか迷ったが、現地の方から歌って欲しいとの声があったので歌えた。みんなの知っている歌を選曲した。別れをテーマにした曲などもリクエストがあり、歌を聴いて悲しみを一緒に吐き出すことも必要であると感じた。

3. 意見交換

～今後の東日本大震災の支援に向けて～

参加者から、今後の支援のあり方など幅広く意見交換を行った。

【主な意見】

- ・ 篠山市で取れた米を秋に市職員1人一袋で送る計画をしており、農家や市民の方にも呼びかけたいと思っている。
- ・ 次回ボランティアは、6月24日～27日で、南三陸町で調整をしている。
- ・ 女性には、泥かき作業などは重労働で厳しいと思うが、女性の特性を活かした傾聴ボランティアや炊き出しボランティアなども行えないか。
- ・ ボランティアに行きたくても、行けない人が入る。篠山市に居ながら支援ができるという環境を整えることも大事ではないか。
- ・ 神戸で行われた東北物産展に参加してきた。篠山市でも、味まつりなどで、このような取り組みが出来ないか。
- ・ ボランティアを支える基金を作れないか。ボランティアサポーター制度を作って、後方支援に多くの人を巻き込む仕組みが出来ないか。
- ・ 災害で、家がなくなり、仕事がなくなり、それが自立できないことにつながり、災害は怖いものだという思いが強くなる。避難所は何もかもが無料であるので、被災者の方の自立を妨げてしまう。一つの考え方に、「キャッシュ フォー ワーク」というものがあり、ボランティアがやっているような仕事を被災地の方にやってもらって、その見返りに賃金を渡す。そのことにより、被災者の方が将来を考えていくようになる。
- ・ ボランティアに行かれた方の報告会を行うことが提案された。

- ・ 次回は、7月ごろ。第2回のボランティアの報告、その後の状況の変化等もあると思うので、そういうことを踏まえて議論したい。

5 . その他

閉会后、参加された方々が、個々に、名刺交換や情報交換などを行われ、今後の支援のあり方について、意見を交わされていました。